

2008年10月号 / 季刊 No. 21

ミンダナオの風

執筆編集*松居友

発行: ミンダナオ子ども図書館

Hangin gikan sa



NDANA0

大変なことになった
とにかく大変な事になった
「アレオサンで戦闘があり
ピキットとの境界に
難民たちが避難している
政府やNGOの支援もなく
雨よけのビニールシートもなく
夜はずぶぬれになっている!」
そう聞いて、救済支援活動を始めて
半月もたたずに
イスラム反政府勢力MILFと
フィリピン政府軍との戦闘が
ミンダナオ南西域に拡大
枯れ葉の森の、落ち葉の上に
うっかり一本のマツチの
火を落としたとたん
あっという間に
森中に燃え広がったかのよう
難民の数は20万に膨れあがった

ミンダナオ紛争と私たち

松居友

日本でもたびたび報道されたミンダナオの紛争を、勃発時点から、くりかえし難民キャンプに通いながら、救済支援を通して経験できたのは、幸いだったと言えるのだろうか？

それら地域に、我が子のように想っているスカラー（奨学生）たちがいるだけに、悪霊に覆い被されて潰されていくような、日々深まる戦争の不安と重圧に苛まれ、居ても立ってもいられない焦燥にかられ、難民救済支援を続けた。

戦闘など、本来この様な事はあつてはならない事なのだ・・・



戦闘が起こるのは何故か

人類は叡智を働かせて来たのだから、もうそろそろ戦闘が無くなっても良いと思うのだが、それでも戦闘が起こるのは何故か？

ミンダナオにいて判った事だが、戦闘は喧嘩とは異なっていて、非常に緻密に、計画的に筋書が練られ、実に巧妙に「作られ」る。何のために作られるのか？

根幹はイスラムとクリスチャンの宗教対立と言うよりも、膨大な石油や天然ガス鉱物資源とプランテーションを基盤とする豊かな農業資源の、先進国による国際的な利権の奪い合いにあるとされている。

戦闘の勃発から刻々と変わる状況と救済に関しては、多くの現場写真と共にサイトに記録してあるのでヤフー検索「ミンダナオ子ども図書館」を見てほしい。

戦闘はどのように始まったか

8月1日、戦闘初期

「アレオサンで戦闘が起こり越境してピキットに難民が流れ込んでいます。アレオサンは、ピキットに隣接する行政区域だ。

戦闘の原因は、表向きは町近郊に農地を持っていくクリス



チャン系住民と、周辺に追われたムスリム系住民の衝突と言われている。豊かなクリスチャン系住民を妬んだ反政府組織MILFが、収穫時期をねらって、米を略奪しようとしているのだとも聞く。

マスコミでは『イスラム反政府勢力が農民を殺害した』という報道が流れているが、イスラム教徒＝残虐、と言うステレオタイプの報道を流すことで、反イスラムの民意を形成しようと言う意図があるかもしれない、背景を知らずに報道を鵜呑みには出来ない。

前後してDSWDのグレイスさんから、行政が農民に武器を無償で手渡している、それが戦闘を発生させている原因の一つ、という話

が伝わってきた。つまり、農民に武器を渡すことによって、住民が民兵として活動しているのは、こちらでは既成の事実で、戦闘の多くは、民兵と反政府軍のいざこざが発端となる。

今回の戦闘は、背後に現在進行中のイスラム自治区（ARMM）の拡大を含む和平会議が陰を落としているからなおさら複雑だ。

これは、サイトに残された記述だが、ここで「行政が農民に武器を無償で手渡している、それが戦闘を発生させている原因の一つ」という、グレイスさんの話が注目される。彼女は、市の福祉局に属しており、現場の正確な情報を把握している。



さて行政が農民に武器を手渡したか否かは別にして、ミンダナオにおける戦闘の初期はよく似ている。それは「住民同士のいざこざ」が原因。例えば「イスラム教徒の嫌いな鬮鶏を始める」とか、「武器を持った暗殺集団が農民を襲う」とか、この暗殺集団は反政府組織と言われることもあるが、かつてマノボのエディットさんが語った、「イラガ（ぬずみ）」と呼ばれる移民系クリスチャンの暗殺組織だったりする。今回も、マスコミでは、この「ぬずみ」の復活が話題になった。有名な議員と通じている、と言った報道までも流された。

「小さいいざこざ」は、実に巧



妙に作られている、とも考えられる。このプロフェッショナルな仕掛け人の背後に、どのような政治的経済的パワーが隠れているのかは判らない。

この様ないざこざが、戦闘に発展するケースは、過去しばしば起こっているが、小規模で治まるか、大規模に発展するかは、その背後に、国際的なパワーが関与しているか否かで決まってくる。

今回の戦闘が大きくなった理由は、40年間のMILF反政府勢力とフィリピン政府との国際的和平合意へ向けた最終サインと関連している。この和平交渉は、イスラム自治区の土地拡大を含んでおり、とりわけ北コバト州のイスラム自治区への編入が記載されていたために、最終段階でキリスト教徒系の住民から異議が出て最高裁で違法とされた。

和平交渉は、直前まで内容公表されず、最終サイン段階で（議員と地方行政主導による）住民の開示要求と提訴の結果、どんでん返しの結末となった。怒ったMILF側は、態度を硬化させた。これが紛争の発端だが、MILF側が怒るのも当然の成り行きだった。

明らかにキリスト教徒が飲みにくい計画を、極秘裏に進めていた点や、どんでん返しを起こして否決すればMILFは怒るだろうと言う事



は、事前に読めていたはずだから、現地で、「挑発しておいて一気に紛争に持ち込むと言う、筋書きドラマが作られており、反政府側が引かかった」と言う見方が初期から出ていて、真相は定かではないが一考に値する。

最終交渉はマレーシアで行われ、直接関与はしていないと言われていたものの、アメリカも日本も交渉の脇役にはなっている。もちろん米政府は関与を全面的に否定している。

紛争は、巧妙に作られる？

ならば、戦闘を起こす目的は何かというと、宗教問題というよりも、土地問題であることは現地で





は衆知の事実で、それは、単に移民系クリスチャンに土地を奪われてきたミンダナオの歴史的な問題とも感情的には絡むのだが、それだけでは国際的な問題となる理由は薄い。

先進諸国が何故この地に関心を寄せるかというと、原因は北コタバト州とイスラム自治区の間にあるリグアサン湿原に眠るかなりの埋蔵量の石油と天然ガスの利権を誰が握るかと言った問題であるとされている。

いったん戦闘が始まると、その波及は驚くほど早い。

乾燥した森林にマッチで火をつけたように、戦闘の野火はあっという間に広がる、と言うよりも、広が

るように準備されている、と考えた方が良さそう。

小さな村で起こされた火種は、そこにMILF軍が入り政府軍が入るか、政府軍が入りMILF軍が入る(同じ事だ!)事によってあつという間に拡大する。その結果、村が襲われ、家が焼かれ、大勢の住民が難民となって移動し始める。

この時点で、マスコミは一斉に反政府側の行動を批判し始めるが:。可哀想なのは、ただ平和に暮らしたいだけの一般住民たちだ

彼らは、時に家を焼かれて、恐怖に震えながら、なけなしの家財道具を持って村から逃げ出す。多くは、安全を求めて市郊外の国道や村道沿いの空き地に逃れる。そこで、灌木を切った枝を支えに、椰子の葉などで、夜を過ごすための仮小屋を作るが、熱帯の集中豪雨をこの様なもので避けられるはずはない。

初期の時点では、行政もNGOも動いていないので、難民キャンプとして学校や穀物倉庫が開放されていないし、食料や医療の支援もない。とりわけ、緊急に必要なのは、雨に濡れないためのビニールシートだが、彼らはそれを買うだけのお金もないし、置いてきた家畜や収穫は盗まれていく。行政や国際的NGOなどが活動し始めるのは、約3週間から一ヶ月後であり、何の支援も得ら



れない初期が、難民にとって最も大変な時期なのだ。

今回、ミンダナオ子ども図書館は、ピキットから近いと言う利点と、絶えずこの地に通って読み語りやスカラシッププログラムを行ってきた過去の活動経過を経て、NGOとして、最も初期から難民救済活動を開始した。

事実、赤十字やワールドフード、オックスボム等の国際支援団体が活動を始めたときには、おおかたのビニールシートを張り終わって一息ついていたぐらいである。

ミンダナオ子ども図書館が、他のNGOと最も異なっている点は



何よりもうれしく誇りに思う点でもあるが、緊急支援活動を現場で実際にやったのが、皆さんがスカラシップ支援をしてくださったっている、ミンダナオ子ども図書館のスカラ（奨学生）たちだった事だ。

写真のように、彼らは恐れも知らず親身になって、時には夜も休むことなく、救済活動を行った。

ご存じのように、ミンダナオ子ども図書館は、200名以上のスカラで構成されているが、イスラム教徒、先住民族、キリスト教徒が可能な限り等しくなるようにしている。毎月月末の日曜日に、全員が集まるミーティングを行っており、学生代表たちが会議を主催しているが、今回もその場で、難民支援実行計画が検討され、実行に移された。



ミンダナオ子ども図書館では、地域の若者たちが、部族や宗教の違いを越えて、平和の活動をすることを主眼としているが、今回もその意味で、大きな働きをなしたと思う。

写真は、屋根もなく困っている難民を助けているスカラたち。救済活動は夜も続いた。

平和構築には、いろいろな手法があるだろうが

平和を作るのはやはり人間の役割であり、そのような意味で、若い世代がこうした具体的な活動に参加することを通して、精神と同時に心を育てていくことの意味は大きい。

私は彼らを誇りに思うし、スカラシップ支援者の皆さんも、誇りに思ってくださいね！

赤十字やワールドフードから国際NGOまで活動が開始

その結果、私たちは、細かいフォロワーに限定して動くことにした。少しホッとして1週間ほど別の活動をしたのだが、久しぶりに現地に行く・・・行政は戦闘が治まったとして、学校などの大きな難民キャンプを閉鎖したが、難民は国道や村道沿いからさらに離れた場所に移転していた。

とりわけピキットに居住している難民は帰宅しても、隣のアレオサンや辺境地域の難民たちは、散発的に

起こる戦闘を恐れ、また家を焼かれ、難民キャンプからも追われて小規模な新たな難民となつてあちらこちらに散在していた。

難民生活も2ヶ月を越えて、病気が蔓延。風邪、高熱、腹痛、下痢、皮膚病の症状が、とりわけ子どもとお年寄りを襲っていた。

赤十字も活動していたが、米の支給と水の支援が中心だった事も判った。中には病気が悪化して死ぬ子も出てきていた。その多くの原因は、体力の不足。米が配給されても、一日一食が限度でおかずも無い、しかも大人や大きな兄弟が食べてしまつて小さな子には、分け前が少ないことも判ってきた。そうした結果、弱っ





た体を病気が襲うのである。
 こうした現状をふまえて、私たちは、医療とお粥の炊き出しと読み語りをセットで行い、子どもたちの体と心の健康を維持する対策を考え実行に移すことにした。
 この間前後して、私たちがスカラーと共に行った、部族や宗教を超えた「平和の祈り」、さらに現在難民キャンプも巻き込んで、追い打ちのようにピキットを脅かしての洪水被害、長野の小雀保育園寄贈の保育所の完成、日本政府のODA支援によるマカプアルの小学校の完成など、とても狭い紙面では語り尽くせない出来事があった。それらは、ウエップサイトでヤフー検索「ミンダナオ子ども図書館」で見たい。



活動が終わって家に戻っても、戦闘の進行状況が、精神や心に絶え間なく重圧として覆い被さってくる。一人の力では、どうにも跳ね返すことの不可能な重圧。このような経験は初めてだった。
 雨がふれば、難民キャンプでずぶぬれになっているだろう、子どもたちが気になる。砲声の中で、蚊やブヨにさされて暮らす日々。汚れた水を飲み、日に一食も食べられない生活を想像し胸が痛む。
 私自身も55歳で、体も精神も、さすがに無理は利かなくなつた？友人たちは、定年退職をし始めているというのにミンダナオ子ども図書館の仕事は、緒に就いたばかりで、まったく試練の連続だ。
 上は、軍用車にぶつかって病院に運んだ子で、入院の後、今は元氣だ。左は、洪水の中をやってくる、難民でスカラーのアイサちゃん。私たちの訪問を、いつもとても喜んでくれる。
 たとえ精神や心が、戦争の重圧や難民救済の疲れに押しつぶされそうになつてもこうした子どもたちの笑顔に出会えると、この様な仕事が出来ることの幸せをつくづく感じる。

緊急：ピキット義援金のお願い！

悲しいことですが、ピキットの戦闘は今後も拡大しそうです。10月1日にラマダンが明け、MILF側も政府側も、総攻撃に備えている様子が見えます。

とりわけ大規模な戦闘が起こると、事態は、急激に展開していきます。道路際にあふれる難民たち。

子どもたちの病気、食料、ビニールシート等、間髪を入れずに行動する必要のある事態に備えて、ミンダナオ子ども図書館では、ピキット支援基金をプールして非常時に備えることにいたしました。

振替用紙に、「ピキット」と書いて送って下れば義援金として使い道を限定して使用します。

今までの寄付総額と使用状況（インターネットのみの公募）7月8月9月中旬まで

緊急物資支援（ビニールシート、ポンプ等）207,789 * 医療、医薬、入院支援 177,521 * ガソリン及び交通費 67,288 食費 9,153 （スカラーとスタッフは弁当を作って持参している）

総計 461,752 ペソ、1 p = 2.252 円で計算すると 1,036,942 円となる

現在までのピキット寄付の合計は 1,370,123 円なので、331,181 円残っていますが、今後必要となる、炊き出し、医療、ビニールシートに諸経費を加えると足りない状況で、戦闘拡大状況を考えると完全に不足しています。

ラマダン明けの戦闘拡大が無いことを祈りつつ・・・

郵便振替口座番号 00100 0 18057

加入者名 『ミンダナオ子ども図書館』

三菱東京UFJ銀行 久我山支店 普 4599499

ミンダナオ子ども図書館：日本事務局 山田順子

今年度のスカラシップ応募も、よろしくお願ひします！

混沌の中で

松居 陽

戦闘の勃発から刻々と変わる状況と救済に関しては、多くの現場写真と共にサイトに記録。ヤフー検索「ミンダナオ子ども図書館」

僕はこの世から四つ、無くなってくればと心から願うものがある。それが犯罪、無知、狂気、そして戦争だ。

見るところ、ある程度人が自由で平等であり、権利を持つ社会では、人が倫理や道徳に反した、自分や、他者や環境など周囲の生存を脅かす行動をとるとき、たいがい周りではそれを犯罪とみなし、正そうとするようだ。

僕にとって無知とは学歴の有り無しとは違い、個人が生き、観察していくうちに知った真実を知る、また知る勇気を持つことが出来ないという意味だ。知ったことを知り、それを持って考え、解決し、決意し、人生を創り上げていくことが出来なければ、上手く彩られた嘘や正当化された悪事に屈する可能性も高いのではないだろうか。

狂気とは、理性的に考え、行動することが出来ない状態を示すのだろう。有害な固定観念や感情に囚われ、まっすぐ澄み切った分析が出来ないと、人の心は奇妙な解決法を見出し、自己と周囲に混沌をもたらすようだ。

争いとはなんだろう。外見上、二者が対立しているように見える。あること無いことが飛び交うコミュニケーションは、弾丸のごとく、とてもまともに受け止められるものではない。狂気に襲われた者達は、心に平安を保ち、単に情報を伝達し合い、ひびの入ったお互いへの理解を修復するのではなく一生懸命お互いを滅ぼそうと努力する。それが実弾によって行われたものを、戦争というのだろう。

では争いとはどのように起きるのだろう。二者の間の理解の割れ目を狙い、不正確な情報で対立を扇動する者、第三者は、二つの勢力が争っている外見にその陰をかき消すものの、ほとんどの歴史上の争いに登場し、その存在は賢明な歴史学者によって明らかにされている。それは、時にとんでもない真実を物語り、第三者は多くの利己的な利益を、多くの人々の苦しみと引き換えに得てきたようだ。



ピキット周辺で起き、増長する可能性を持つ今回の戦闘も、思いがけない第三者が双方の理解の不足を突いて、対立を扇動し、悪化させた可能性は実に高い。僕にとってそれは過言でもパラノイアでもなく、観測から行き着いた論理的な推測だ。

それにしてもなんとむなしく醜いものだろう。難民は家を追われ、恐怖のうちに生き、中には親族が殺され、または行方不明になり悲しみにふける者達もいるのだろう。戦っている者達は死に恐れ、人間同士を殺し、トラウマを得た心は損傷し、生涯通常に生きていくのも難しくなるだろう。

戦争を布告した者達は、その非倫理的な行為を正当化しようと骨を折り、その決断が恐ろしく破壊的なものだった

と認めるとき、発狂しうる。それを周りから見る者達も、人々の苦しみに共感し、どうしようもない気持ちで、人類の明るい未来への希望が薄れていくかもしれない。

そして僕は、それを煽った者は一番不幸だと信じる。自身の善良さを認めることが出来ず、自らを悪魔だと思える心を持つということ、感じることに恐怖し、単なる肉体的な存在として、ただただ死を恐れるだろう存在を、僕は哀れむ。

果たして僕には何が出来るだろう。出来ることならたくさんありそうだ。まずは自身の精神の向上を図っていききたい。人の天然の善良さを信じていききたい。正義の押し売りではなく、幸せをつかみ、生き方をもってインスピレーションを与えていききたい。

こうした文を書くことだって、決して無駄なことではないはずだ。



貧しいからといって、必ずしも不幸とは限らない
 私たちの生活の方が、豊かな国の人々の生活よりも
 はるかに美しいと感じるときだってある。
 けれども、どうにもならないのが、
 お金がなくて学校に行けないときと
 病気になっても病院に行けないとき・・・



ミンダナオ子ども図書館：支援方法

1、医療や読み聞かせ活動を支援して下さる方々へ・・・自由寄付

専用の振り込み用紙をご請求いただくか、下記の振替口座をお願いいたします。

寄付をいただいた方々には、若者たちの手描きのお礼の絵葉書と、ミンダナオより年四回季刊誌「ミンダナオの風」をお送りしています。

2、大学生高校生スカラシップ支援の方へ・・・年額60000円（月額5000円）

振り込み用紙の通信欄に「スカラシップ」と書いて、一部振り込んでいただければ、手描きの絵葉書を確認のためにお送りいたします。

3、里親支援（小学生）・・・年額24000円（月額2000円）

振り込み用紙の通信欄に「里親」と書いて、一部振り込んでいただければ、手描きの絵葉書を確認のためにお送りいたします。

スカラシップと里親支援は、年四回手紙や手書きクリスマスカード、写真、プロフィール、成績表などが届きます。文通可能、現地に來られた場合は本人の家庭までご案内します。

詳しくはウェブサイト（ヤフー検索：ミンダナオ子ども図書館）

4、保育所建設支援・・・30万円（分割可能）

振り込み用紙の通信欄に「保育所建設」と書いて振り込んでいただければ、手書きの絵葉書を確認のためにお送りいたします。

郵便振替口座番号 00100 0 18057

加入者名 『ミンダナオ子ども図書館』

三菱東京UFJ銀行 久我山支店 普4599499

ミンダナオ子ども図書館：日本事務局 山田順子

好評のメールニュース（無料）をご希望の方、松居個人にご連絡くださる方は

Eメール：mclstaff@zar.att.ne.jp

活動状況や支援方法は、より詳しくホームページで閲覧できます。

ヤフー検索：ミンダナオ子ども図書館

連絡先

Eメール：mindanao@zap.att.ne.jp（松居友個人宛）

現地携帯：001010-63-9219603640（松居友）

FAX：001010-63-642885426（現地本部）

日本滞在中の松居友セルフオン：08055023446

本部住所：Mindanao Children's Library Foundation, Inc.

Brgy. Manongol Kidapawan City North Cotabato 9400 Philippines

日本事務局：東京都杉並区久我山2-13-4-201

TEL：090-1201-8296（山田順子）

FAX：03-3247-4409